

ビラ ー ン 通 信

No.10

1998. 2.15



サムラング豚飼育場の前に立つラウロさん

サムラングのこと — 経済と政治の状況 —

ラウロ・ポブラドール
(CMBサムラングC. C, コーディネーター)

サムラングとは「人が集まる場所」という意味です。互いに遠く離れた村を訪ねる人々がこの村で休息し一晩泊まっていく。そんなところでした。そこにはいつも村人のもてなしがありました。みんなが住みたいと思うような村でした。

しかし、近年その魅力ある村の雰囲気は少し変わってきました。飢えが広がり、先が見えない不安感もあって村を去る家族が出てきました。

どうして飢えがここを襲うようになったのでしょうか？一つはねずみやイナゴ、その他の害虫の襲撃です。収穫前の畑が何度も被害にあいました。私たちは今、住民たちに、こうした害虫が隠れる場所である草むらを刈り取るように勧めています。

もう一つは金融業者の進出です。コミュニティーの住民は作付けの時まず種子代に困ってお金を借ります。輸送手段を持たないため、彼等はこの業者に収穫したコーンを買ってもらいます。自分で売りに行けば、26円/kgになりますが、この業者を買ってもらおうと18円/kgにしかなりません。その売り上げから借金を返します。高い利子をつけて、手元に残るのはわずかです。生活必需品を買うためにも借金を重ねることになります。肥料についても同じくこの業者から市場価格の2倍近くで買っています。

以上はサムラングの住民と金融業者の関係の一例です。住民はこの仕組みが不条理だと分かっています。しかし、作付けの時あるいはランプの灯油（ケロシン）がなくなった時、この金融業者に頼らざるを得ないのが実状です。

治安悪化の主因はこの貧困にあります。コーンやお米についていえば1週間に2回か3回ぐらいしか食べられない住民は、お金がほしくて、山の中でマリファナをこっそり作るものもいます。もちろん法律で禁止されている行為ですから、警察に追われます。

生活に困った末、ピサヤ人（ビラーン族の先祖伝来の土地に移住してきた低地人）の家畜を盗むビラーン族もいます。ピサヤ人とビラーン族との争いの火種になります。これで命を失うビラーン族が少なくありません。

CMBの支援が始まってこの状況は少しずつ改善されてきました。特にHANDSの協力でウェポンキャリアーを買い、安い輸送費を払うだけで、自分達で市場にコーンを出せるようになって手元に残る生活資金が少し増えました。しかし、生産資金まで自分で用意するほどのゆとりはありません。一方、金融業者は自分の傘の下から出てしまった住民に、肥料代、種子代を貸してくれません。実は今これが頭の痛い問題です。避けてはおれない過渡期の苦悩です。

私たちはここサムラングに住民の小さな生産共同組合のようなものを作ることを考えて、住民達と話し合ってきました。貧困からの脱出は一人一人の力では無理です。小さな資金から始めて自分達が管理する資本を持つことです。そしてそれを、管理運営する人材が必要です。教育です。1 昨年のクリニックから始まり、昨年は待望の小学校がいずれも日本の皆様のご協力で完成しました。

今サムラングは、再び人が集まる村を目指して歩み始めました。HANDSの皆様の知恵を貸して下さい。そして今後とも資金面でのご協力をいただければ嬉しく思います。